

部報

第4号

全学習院バスケットボール倶楽部

目次

		頁
大学籃球部の諸君へ.....	鈴木 正三	1
女子部をコーチング致した事.....	堀 望 次	3
大会を終つて.....	坂口 知夫	4
主将となつて.....	荒 蓬二郎	6
釜石により.....	藤崎 勇夫	7
合宿日記.....	大学 全員	9
全日本バスケットボール高校選手権東京予選を觀て.....	楠崎 純美子	13
梅子にまつたインターハイ予選.....		15
国民体育館に於いて.....	玉真美智子	16
決勝戦.....	葛城 洋子	17
秋季高校選手権兼国体予選.....	永 井 記	21
国体予選について.....	岡崎 純美子	21
女子国体予選試合の觀客.....	工 紀 香	21
国体予選を見て.....	石和 俊夫	24
附屬戦雜感.....	久保 治彦	27
附屬戦を檢査する.....	A 生	28
ツマラナイハナシ.....	羽佐田 恭正	30
附屬戦を讀みて.....	大久保 徳重	34
附屬戦雜感.....	H · K	34
附屬戦後記 ——(感懐録)——.....	毛利 元海	36
今も忘れぬあの時あの気持ち.....	東 昭	37
繁やかな風景——慢遊女子部附屬戦記.....	高橋 冊太郎	38
女子部附屬戦.....	K 生	40
國体三番.....	松本 匡夫	41
給食帳.....	竹嶋 王求	45
戦績・スケヂュール.....		46
ぼろぼろ.....		8-18-46

大学籠球部の諸君へ

監督

鈴木正三

着々部報が堅実な歩みを続けて居る事は嬉しい事である。本号が出される際、大学バスケットボール男子、女子チームの運営に就いて書く事を依頼された。私は数字に亘つて、その責を果したいと思ひますので、本号には所感とでも云ふ可き処で、かんべん願ふことにしました。本院各部が漸く盛況を呈して来た折、本部女子チームが春朝リーグ戦に敗れた様な、練習を十分に行はず、自信もないまゝに出場した事実はある。この事実の原因にはいろいろの問題があるやうに思はれる、則ち、運営、経費、部員数、コート、指導者等々数へきれない程ある。併し私はこゝではこれ等の向題を擧げて、諸兄姉の心構へについて、一二所感を述べるにとどめた

い。
その一つは、バスケットボール部生活に対する者へ方である、諸兄姉には学向すると云ふ本業がある、簡単にみれば、学校の授業に出席して真面目に講義をきくことである。従つてバスケットはこの本業からみれば余暇利用の生活である。だから、時間が少かつたり、疲労が問題になつて来る、この問題を解決するにはいろいろの方法があらうが私はまず次の二つの訓練をする事を望みたい、すなわち、まづその第一は鼻持の転換とこれが実施を訓練することである、仲々むずかしいが訓練すれば出来るやうになるし、社会生活に入つてからも役立つ事は必保である。従つて部としては誰でも部員が支障なく実行出来るスケヂュールを作成する事である。部員はこのスケヂュールをきびしく守る数構へと実践力を部生活で養つて行くやうにする日常生活を確立してもらいたい。かくして、部員にとつては学業、バスケット、勉強と云ふ課業へ

の転換と実践を忘失に学び事が出来よう。部負の要くはこの転換がうまく行かないし訓練しない。前の課業から次の課業へのうつりかわりが下手であるし、しまりがなくて、時間を無駄にする争が多し、この解決は諸兄弟の課題として勉強して貰いたい。

次に体力の問題である。学校が始まり、シーズンに入ると学業とバスケットで体力が消耗し学業に対する意慾とバスケットに対する意慾がなくなる云う強い疲労の徴候がみられる。これを解決することこそ部負にとつて大切なことなみとならう。私はこの解決の爲に長期休暇を利用して体力を練る機会を作る争をすゝめたい。今宿練習等を利用して体力を十分に練り、この体力を維持して立派にこの問題を解決して貰いたい。一日の夜業をうけても尚ほ練習に對する意慾と体力が十分にあり、練習を終わつても尚ほ且つ家に帰つて机に向い勉強する意慾を十分に残して成長があがるやうにして貰いたい。こう

なればバスケットも苦にならず楽しく部生活が続けられるばかりでなく学校生活が有意義におくれやう。

要するに私は、オーにスケヂョールの決定を促した部負は、このスケヂョールに従つて自己の学校生活のスケヂョールを作成してこれをきびしく身を以て守り通していたゞきたい事です。

そのオ二は自己の体力を鍛練して自信を以て練習に勤み得るやうに望みたい事です。従つて日常生活には節制と鍛練が要求される事になります。この基礎の訓練から始められた部生活には練習なしに大会に出る笑えない事実はなく、リ、勉強なしに受験する不心得は存在しなく、りませう。こゝで注意すべきはチームの種族者であるといふ一争です。自分一人だけでは出来ない争です、部負全体が一つの心となつて立派な雰囲気を作る争に努力していたゞきたい。然らざれば一人の真面目な正道者は馬鹿をみでています。

人の注意は感情を交へる争なしに素直な氣持で聞いて頂きたいと云ふ事と、物争には、よつて来るべき原因があるといふ事、云ひ換へれば結果があるからには原因があるといふ事を知つて頂きたい。さうして如何なる原因でこの様な結果が生れたかといふ事を理性的に科学的に素直な氣持で充分に反省し検討して頂きたいといふ事である。

最後に未熟なコーチの云ふ事を聞いて更細に熱心に練習された女子部の方達と種々援助して下さつた正田君、小田さん、小川さんに感謝すると共に今後共時間の許す限り与えられた高等科の面助を受けて頂きたいと思つてゐる。

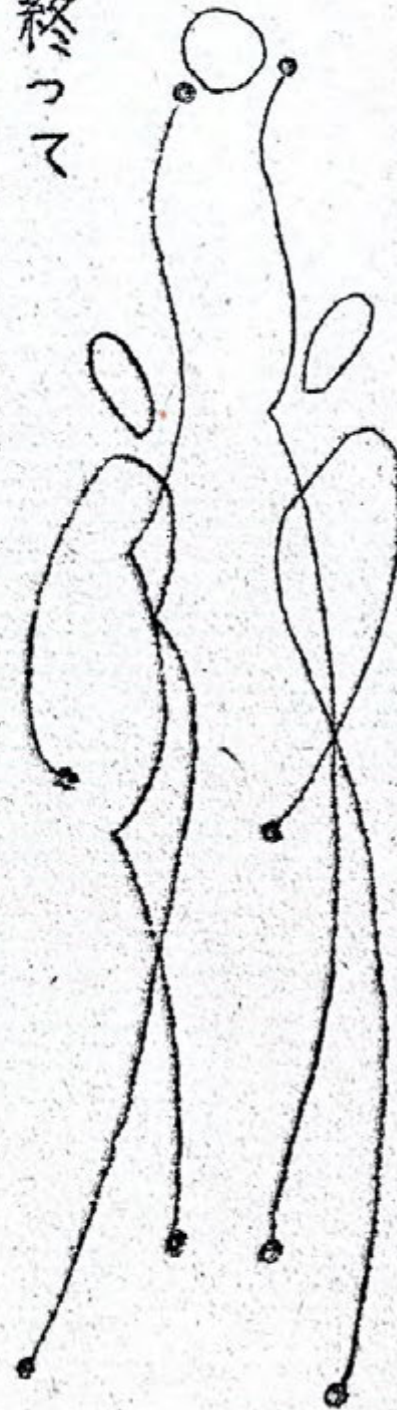
九月十二日

堀 堅次

(筆者は大学四年、前主母、現在高等科コーチ)

大会を終つて

大学籍球部主母 坂口知夫



KK

オ三回肉東新制大学トーナメントが六月二十二日より国民体育館で行はれた。この大会はオ二回が一年前に行はれ、その頃は石島も元氣で活躍し、準決勝で学芸大を、決勝戦で青山学院を破つて優勝し、カッパを獲得した。昨年は春にリーグ戦があつた為

トーナメントがなく、このカッパは我々の所に二年間滞在したわけである。たまくこの新制大トーナメントに続いて直ぐ翌日から肉東学生送手叔があるので、カフルヘツターを含めて数日間連続試合を覚悟せねばならなかつた。

オ一團隊は芝浦工大と対戦した、芝浦工大はタワーク
ホース的存在と伝えられたがさして苦戦する事なく
直ぐその日にオ二團隊に学芸大と対戦した、学芸大
は練習不足があり、と見え、これも劇的な試合
合であった。オ三團隊は横濱国立大とであつ
た。このチームは諏訪、安田と云う好送手を中心と
して速攻にセットオフェンスにかなりシブなチーム
であり、吾々はこれに對して大外速攻戦法を用いた。
この作戦は成功して終始危いつ追われずの熱戦とな
つたが後半十分頃よりパスミスが長く出て速攻戦に
持込まれ、その走力と確実なシートに破れた。三位
決定戦は明治学院を致つて結局三位に落ち着いてし
まつたわけである。翌日から行はれた関東学生選手
権オ一日には昨年の高校の覇者北越商の優秀選手が
活躍する明治大学と対戦し、前半は互角に勝負を進
めたが、後半には疲労で殆んど動けなくなり敵の速
攻をほしひまにさせてしまつた。

この大会を乗り返つて特に感じることは我々のチ
ームが耐え方に欠けていることである。対横濱国立
大を山にして急速に連日のへばりが見え出し、かな

り苦痛な試合をやつてしまつた。この原因は練習不
足にあるように思えるが今シーズンは、練習一週四
日制を実施して出来るだけ授業の時間に掛らないよ
うにした為練習の時間が遅くなつたりしてかなり無
理があつたようである。しかしこれは止むを得ない
ことである。芝浦内で練習の効果も上げねばならぬ
その為には何人の生活に於ける節制と努力が特に必
要であると思はれる。この点秋のシーズンには充分
心掛けねばならないことだと思ふ。もう一つへばつ
た時のフィットが足りない、これは人に云はれるより
も各自が張切る必要があると思ふ、一人がフィットを
出すと、それにつられて皆フィットが出て来るもので
ある。誰もがフィットメーカーになる積りでやる事が
必要である。その他技術面については合宿等で充分
反省した筈である、これを実地に利用する為の研究
的態度も特に必要である。

以上簡單ではあるが春のシーズンを顧み、秋のシ
ーズンへの反省材料とする。

尚先輩及高等科諸君の試合等に於ける御声援を感
謝し今後共よろしくお願い申し上げます。

主將となつて

高専科 宛 連二郎

附……

毎日く、炎天の下に練習を続ける我々は、来年の附属戦を

目指してカンパツテいる。高等科籠球部の抱負として、今更、新らしく進べる事はないが、やはり最たる目標は附属戦である。現在の所、大分負け越しているが、来年は是非共と考へている。毎年々々、同じ事を口にしてはいるが、いつも惨敗をさせている。であるから、この僕の云つた事が、必ずや実現されん事を願ふのみである。それには先づ部員一同の協力と盛球といふものへの熱意が必要である。現在、部員の数も減りてまいとは云へぬ状態なのであるから、それだけ體り易く、練習へは必ず参加し、一人でも減らぬ様にしたいものだ。

それから此の間、全日本の時、大分な失敗をやつてしまひ、先生方を始め皆様に大分迷惑を御掛けしました事を、誌上を借りてお詫び致します。しかし此の事も、何か部員一同に、常に緊張している心が欠けてるのではないかと思ふ。之で再び皆の注意を喚起したい。もう一つ今年の希望としては、勝つといふ事も大切だが、飽くまでも高等科の学生らしく、フェアプレイとフイトを持つて試合に臨んで貰らひたい。そして最後に再び今年こそはカンパツテ。

全日本の時の大失敗について少々御知らせ致します。

全日本の時は三年の方々も、相違の處接をして下さり、殆んど全部が練習に参加して下さいました。丁度全日本のスケジュールの手定を済ませた時、以前より、全日本の予定は七月二十一日より始るとの先入観があつた為、日程は兎ずに、相手校の名前だけ見て、特に三年の方々は、相手が三田高校だとして、少なからずフイトを燃して居りました。その高日程に最初の日が二十一日に変更しよとは聲にも知りませんでした。で二十一日になつて、皆さんに教へられた時は、本台にビックリしてしまひました。

後は規定により一年間の公式試合の出場停止です。何とも御詫びのしようもありません。

籠球部の皆様

御元氣ですか、釜石より二倍を御送り致し

と無い人とは分かれて来るのは、仕事と仕事の間の空白を如何に使ふかによつて変つて来るのではないでしようか、これは特に運動をやつて居られる諸君に考へていたときたい事だと思ひますので

まず、四月四日朝、東京より五八五二料の釜石駅を初めて踏んでからも五ヶ月も経つてしまひました。

重宝な空白をパチンコに費して居る我身をかへり見ず、おこがましくも申し上げる次第です。

での同馴れぬ土地での生活故文句ばかり云つて参りましたが、この頃では時々当地の気風に次第に同化

つまらぬ話はこの位にして今日は少し荷を御衆内致しませう。三陸スヨールドの南端に釜石湾が

されて行くのを感じ何だかさびしくなります。私と一緒に赴任した連中も皆、同じ様な手を感じて居る

有りませう。この釜石湾に甲子川と云ふ小川がそついで居り、早子川に沿つた谷間に釜石市が有りま

らしく或る人は萬歳の浪蕩だと云ひ、又或る人は空白だと云つて居ります、私は他の人と違つて昼夜三

す、この上流が市外小佐野で、こゝに小生の居る里仁家がありますへ別名奇人寮とそれより變々に

交際の勤務をして居ります関係上、一人で居る事が多いので一層空白を感じる機会が多く、定等一人で

下流に向つて社宅、商店街、社宅、アパート、工場と並び、工場の川向ふに同じく湾に沿つて銀座

手勢所に居りますと、色々と学生時代を思ひ出し、今の生活と較べては懐かしんで居ります、けれども

とも云ふべき所が有り、その又向ふが漢村です、市街にはパチンコ屋、小料理屋が圧倒的に多く、

此の頃、この空白が非常に大嫌なものではないかと思ひ初めました、それは暇な時に何をして居るか

映画館が二つ有り三ヶ月位離れた邦画と半年位離れた洋画をやつて居り、二本立てで百二十円もとり

その人の性格を表はして居る様に思えるからです、又考へられた仕事をして居る間は人々によつて能力

ます、波曲、キンバラ、西部劇は何と云つても人の

のさといふものはそれ程遠くは無いらしいのです、ハツクとも初めの中は、それが次第に能力のある人

気が有り、私も三四回見ましたが「哀愁」を見て

るるるるる 先輩 崎 狐

先輩といつても話をしてみれば何の争はない、全然先輩といつた感じを受けない人、だが劣敵が発進している彼は昔から割合に単純な連中の集りであつた籠球部にとつて全くよい先輩である。

麻布中学より本院の高専科（旧制）へ、当時余りパツとしていながつた籠球部にあつて苦心をかさね今日の土台を築いた人、高東将より東大工学部へ進み、現在釜石の富士製鉄に勤務中の一サラリマンである。

生れつき物事をするにヨウリヨウがよく勉強も決シマガンク

する型ではないけれど、大卒を出て就職難の金へんに入つてしまつた、ある情報によれば釜石では町の女の子の注目の的となり時々ワンクをされてそつとしていたとの事、何はともあれ現在彼が学窓より社会に飛び出して世の中の荒波にもまれ上つていくことは確かだ。狐氏よ頑張れ、狐氏が今に噴水が何か、ら簡単に鉄を作る方法でも考へて大金持になり母校学習院籠球部に体育館でも寄贈してくれるのではないかと期待している次オ。そうすれば皆日本一の選手になつてみせるさうです。

一人一後輩

東京で見た時とは又別の表態を味はされました、蔵に環境とは恐ろしきものです。当市にも学習院在學生が二人居られる由今に二人共バスケット部へ入つていたといひ、全学習院バスケットクラブ釜石支部を作らうと思ひますが、ゲームをするには木片二名足りませんから、有為の諸君の申、極めてのんきな非文化的な生活を志す方の御出でを待つて止みません。

新レイシースンを迎へて皆様の御健勝を祈ります。

釜石にて

狐崎 高夫

（左）信は、未発表、編纂者



宿 日記

沼津で出発

八月 日

朝九時

二十一分

の沼津行

多くて全部平らげるのに苦心サン
タン。

八時半、いよ／＼練習に出発、

宿舎から東高校まで三料以上の真
直ぐ続くアスファルトの道を馳足、

毎日コンを走るのかと思うといま

さかバテる、すでに、靴ず水やら

まめをつくつてピワコをひき／＼

走っているものが目につく。やう

どの思いでコートに善き練習開始、

練習を終つて又々長い／＼道を

馳足で宿舎にもどつたのが十一時

半過ぎ、馳足中××が時々苦しそ

うだつたが、遂にのびて大野の自

転車に乗せてもらつて無争到着、

宿舎前の松林での体操の苦しさ。

体をやう／＼の思ひで洗つて昼

食へ臭名不明のフライ。三時ま

での休憩の向は皆昼寝でいま／＼で

の合宿中にはみられなかつた光景、

三時間の練習は長いが、昼寝の

時間の短い事。午後の練習は沼津

高の人と五対五を主として行ふ。

一日の最後の馳足をやつとの思ひ

で終へて、風呂に入り、夕食にな

つたが、風呂が長くかゝり、七時

に食事にならないのは団体生活を

する上に考へたい事である。

八時半から皆一室に集り、反省

会を開いた、悪い處ばかりでい

争は出ずまさに今後の練習でどの

位改善されるか、一つでも、二つ

でも身につけて帰りたいものである

。相変らず医療品の練習は凄

々方まであつた風も夜になつてす

つかりなくなり、

布団に入つても暑

くて中々寝つかれ

ない。ねながら明

日の馳足を考へる

途中何争もなく昼頃沼津駅に着く
駅の附近は予想よりきたない。二
時トレーニングを行ふ。参加者は
八人、残りの三人は二十日頃乗る
とのこと、トレーニングがだつた
ので、へばつたものもなく、夕方
皆で揃つて游泳する。

八月 日

七時起床、但し上原と小生は当

番とやらをおぼせつかつて、六時

四十分頃起きたが、まだ一日目で

体も痛くなく皆割合寝起き良好。

七時半食争、イカの甘煮と味噌

汁だけで大分不平が出ていた。常

連の大食事を除いては二合の飯が





と暑ラツこの上なし、
人数が少いだけに、一
人の故障者も出さず、
無事に終へたいもので
ある。
十時消燈。

八月 日

とても涼しい朝風、潮風が吹い
ているのに、畜生どうしてこんな
に痛いんだらう、足が腰が背中が
小便も満足に出来ないじやないか
も一週向も経つた様な気がする。

まづい／＼朝食を終つて、馳
足、苦し汗を出す馳足、まるで足
全部に針や釘をつきさしている様
だ、セツナイ、セツナイ。

ほつと一息、もうこのまゝ何ん
の苦痛もないあの世へいきたい、
だのに、何んと無情なホイヌルだ
らう、又練習。

昨夜の注意もとこへやら、テン

ず動けません、早く終つて頂戴、
頂戴な。

十一時になつた、たしかに終つ
た、けれど目がくらむ、又馳足。
あゝ苦しい、苦しいこと、もう何
も考へまい語るまい。ぬる手とぬ
る手をたのしみにするんべえ。

午前中の練習がすんで帰へ帰る
と阿部が頼を寄せ、フレーヤーが
漸く丸く、コートへ行くとサクマ
んが来て、松宮がアルバイトやら
の仕事で来らぬないとの事。

だん／＼ハタシ組が出て、走る
のも跳ぶのも一苦労、練習は相委
らずくたびれて、帰るのにヤツサ
モツサ、風呂に入ると気持ちよく、
それ以後は天口、反省会でいろい
ろ話が賑つて就寝。

八月 日

今日は日差しが強く大分日にや

けぞうだ。

今日からは沼崎西の正統の口
トで練習すべく、直理は夏場の
て約六科を馳走、九時終業
皆へばつてしまつて練習は
のらない。最後の五村五は五分
の予定の所、計時の息継で二十分
やり、皆の怒り天を突く(ヘマ)途
中青木が参加してフレーヤーがや
つと十人揃う事となつた。

帰舎の途中大豊の番伍者を出し
て、自転車を迎えにいづく始末、
昼食はライスカレー、当地へ来
て初めて肉にお目にかゝる。
午後出かける前に

多量の西瓜をたべる、
その為か行きだけバ
スに乗る。皆、遊し
そうであつた、しかし
皆満子は出ない様子。



帰り格任者二名出す。

夜九時から、鈴木先生の話を聞く、[「]未だ良くなつた所なし[」]と。その後、汁粉を食べる、今日の当番は、茶、西瓜、汁粉といそがしい、

八月 日

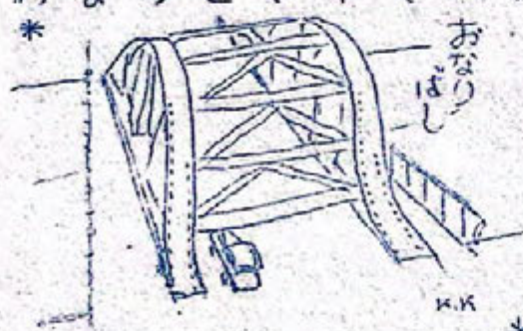
台箱もいよく半ばに入る、何時ものように八時半に出発、バスでおなりばしに行き、そこからエツチラホツチラ沼商まで馳足、朝はつらい。あの游泳場からの全コースに比べたらほんの少しである筈なのに随分長いような気がする。午前中は一日の中で一番へばつてゐる、走つては^{／＼}止つては^{／＼}、余程気を確かに持たないと本自にだらけた練習になつちやう、^{／＼}気だけはしつかり持ちましよう。帰りは游泳場までずつと

馳足、足の痛いので、へばつてゐるのが先登したが途中で会つたのは内藤と茂木の二人だけ、後の二人はこつちがついてから三十分後に帰つて来た。

午後

当番のおなり

息慢で二時半に起きるのを三時寸前になつた為*



*バスに

のるのに一苦勞、にもかゝらずはらずのつたと思つたら、

なし、起床は例のごとく七時、朝食後、午前中は自由行動、海岸に行きボートにのつたり、或は静かに本を読んだり、各自思い^{／＼}にENJOYしてた。

昼食後、皆でバスにて三津に行

く、途中、景色はいかにも伊豆らしく、和しく目を楽ませた。三津の自然水族館は特に見るものなし、二時半、龍宮丸にて沼津へ行く、三時十分沼津港着、そこで解散、各々町中を歩いて八時帰舎。今日十二時すぎ、堀堅次さんが来る。又按井さんは就寝の忙しい中をさいて数日向御指導を頂きまして御礼申し上げます。

すぐおなり橋、へばつてるせい沼商までの距離の速いこと……。

八月 日

午後

午前中はとてもむし悪く、今日が一番疲れているらしい、皆、頭がボーッとされていて練習はまるで



通夜の棟・内容
は大体いづもと
同じで、少し早
く切上げた。

〇〇は熱八七
度三分あり床についていた。

今日の昼休みは皆ぐつすり昼寝

今までで一番おとなしい。反町で
さへ昼寝、××が修善寺へ行つた
のも誰も知らない程だった。午後

の練習は二人共欠席で計八人、人

教だけはふりだしに戻つた形だ。

今日の午後も例によつて沼津東高

の人をませて五対五の練習を中心
に三時半頃より五時半頃まで行う。
午前より元気が出たがまだく、

帰つて八時より茶話会、氷水のう

まかつたことこの上なし。

十時就寝だが、明日帰る感しさを
の為に話に花が咲き、九月下旬に

高崎遠征の計画が立てられるや、
反町の弱ること弱ること。

八月 日

いよく今日が最終日、××が

昨晚修善寺に泊つた為当番一人で

フキ掃除やら、庭はき。しかし、

毎朝鈴木先生が、皆がねている

向に水換へから、掃除まで全部し

て下さるのには、感謝の他ありま

せん。

何時もの棟にバスでコートへ、

武蔵の梅戸氏や、沼津高の〇B等

の人々と試合を行ひ、足の痛いの

にも拘らず奮戦、決勝、殊に反町

はすごい馬力を發揮した、××も

修善寺から直通、練習に参加す。

十二時半頃、初めて帰りにバス

に乗つて宿舎へ、ライスカレーを

思ふ存分喰つて、最後の風呂で汗

を流し、帰り仕度、漸く皆整理し

て三時十分の湘南電車、一路な
つかしの我が家へ。

台宿の感想などは、その後の

折に、又反省して記すことにし

たいと思ひます。

この台宿が無事に終ることが

出来たのも、游泳場の人々や、

鈴木先生始め、大野マネージャー

、坂口主将らのお骨折による

もので、殊に、大野君が、皆の

無理な、面倒臭い注文をよくき

いてくれ、自転車をとばして、

奮闘されたことは本当に、陰の

力として、忘れることは出来な

い。ここにあらためて感謝した

いと思ふ。

（只今再那トン

ネル直通中なり。）

おはり



全日本バスケットボール高校選手権

東京予選を顧みて

女子部高等科 楠崎

月二十一日より二十四日迄四日間に行はれた予選をふり返つて見ると、いろいろの事柄が浮んで来るが、試合全体を見ると、この後、月二十八日より行なはれた口体東京予選にくらべて割合に楽に試合を進めたものだと思ふ。結果は両予選共に決勝迄すゝみ、十文字高女と戦つて敗れたのではあるが……

先づこの大会に対する練習は柏原コーチの都合に依り、学習院大の堀さんにお願ひし、コーチを引受けて頂いてから始め、又、練習後期女子部に中間試験があつたりしたので、日数は少なかつたが皆、高一から高三迄気を合せて熱心に行つたので充実したものであつた。

小松川チームは恐れて居た程の争もなく、オナーター、12対5とリードした。しかし皆反則が多くオニタター三分にスタートメンバーは四人をイン

チしてしまひ、代つて出た高一が試合に慣れないために少しあがつてミスをかきね、小松川に得点されて行き、前半終了の時は、18対17とつめられた。後半、スタートメンバーに戻り一分、21対18と三ポイントされたが二分より着々と得点して、三分四分同点、オニタターは藤田さんのドリブルシュートがよくさまり、巧対巧と六点はなして試合は終了した。前半つめられたが割合楽な気持ちで出来た試合であつた。この試合からタイムをとる合図は藤さんが赤い扇でおあふぎになる事とした。

八月二十二日午前十時より八潮高校体育館に於て本所高校と対戦。

二十一日に本所対新城市の試合を見て大した争はないと見当をつつておれたが、やはり大した相手ではなく、高三は始めと終りに又出場して、後の試合にそなへた。この試合は本所にメンバーが五人しか居ずベンチが出来るなかつた上に、学習院が数分新手を出したせいかもしれなかつたが、高一と高一対でも勝つ相な試合であつた。スコア、22対22。

二十二日午後二時より八潮と対戦。

午前中に八潮対英和の試合を見て八潮の好ディフェンスに皆庄倒せられ、試合開始前少しあがり気味であった。しかし試合が始まると恐れて居た程の事はなく八潮は学習院の徹底した遅攻とキープ策におさへられましまつた様で前の試合に見られた様なディフェンスの動きや、フェイスショットもなかつた。一方学習院ディフェンスは、氣を合せてボイスガードディフェンスをした。点差は23対12と開いたが最後返一寸も息のつかない試合であつた。そしてこれ程チームワークのよくとれた試合は今迄なかつた。

八月二十三日午前九時半より十文字高校体育館にて成城と対戦。

朝八時半、山手線大塚駅で待合せをして十文字高文へ行つた時、体育館に居た十文字の方達が目を丸くして私達を見て「学習院よ」と囁き合つて居た、恐らく学習院などは又一回戦を獲けてしまつたらうと思つて居られたのらしい。いざゝか闘が高かつた。相手の成城はいろいろの点で似て居るので大抵やる事も同じ様なのでうまくこちらのペースへひっぱ

れるか心配だつた。試合開始、攻守はいつもの如くキープ策、防禦はツウスリーのゾーンディフェンスうんと声を出して守つた。案じて居た程の事もなくこちらは確実にポイントして行き前半11対5と六点はなした。成城のポイントゲッターのTさんのフリースローが徹底的に入らないので割合楽だ。しかしこちらもYさんのフリースローが入らないので心配だつた。後半も順調に進み22対15と得点に差をつけて終つた。次はいよいよ決勝である。堀さんに、このチームワークをくずさない様にとの御注意があつた。

八月二十四日午後一時半、口民体育館に於て十文字高女と対戦、朝から落着かずそわ／＼して居た。食事もよく食べられない。どうやらおがつて居るらしい。いけないと思ふとなほいけないので殺にしない事にして家を出た。

一時半いよいよ試合開始、皆練習の時からそれわけて落着きがなかつた。ベンチは昨夜電報を打つていらしただいた西川さん始め先輩の方々がいらつしやる。オーナーター、五分、5対0とリードされた。しかし前半は必死になりはつて12と一点リー

両のいくつかの強豪チームとの試合の経験から保たれるとは思ひながら、やはり今日の試合は一寸心配だ。試合は今やたけなわ相愛らずボールは公平に両ゴールに飛び込んで行く、ベンチの興奮は立ち上らんばかりになつて来る。見るのも恐い、それでも益んに拍かれる手の平はだん／＼しびれてくる。

旅な気がする、いよくラストコーナー、皆の腹に疲労の色が見える様だ。あんなにも張切つていた声がとぎれ／＼になる。しつかり、腹張りましょう、と声振する。アアまた一点々々ボールは我がゴールを開放したかの如く相手のゴールに次々と運ばれる。

我がチームの欠点が現われなければよいがと心配になる。富んだ声援を掛けるがだん／＼ボールの

運が鋭くなる。応援者のみははら／＼している様だ、そして四点五点と引きはなされ、とう／＼、引対引といふ思ひもよらぬ成績に終つた。

最後まで腹張つてネ、気を落さないで、とは云うものゝやはりそれは急には実現しない。普段からもつと／＼ねばりづよく最後まで立派に思ひ残すことなく戦かへる気持を作り上げることが必要であつたと思う。

後に行はれた反省会で堀コーチからもお話があつたように、あんなにも張り切り、観を合わせれば酒田市々々々口にしていた無持にふさわしい態度で戦つて頂きたかつた。残念に思うばかりだ。

最後に因会式に臨み、初めて頂いた二位の賞状に気をゆるすことなく一ヶ月後にひかへている口体予選には、より以上の成績を収めることの出来るよう一生懸命練習にはげましましょう。

国民体育館に於て

高一京 玉真美智子

小松川、八潮、成城の三校との戦いを経て、十文字学園との試合に至つた。国民体育館の観覧席は多くの人で埋められ、天井のガラスを透して照らす太陽の光が真夏の試合の手さをより以上に酷いものにしていた。

両方の選手、共に一杯の汗であるが熱心な奮闘である。学習院、と元気に飛び出す最後の言に前をて上級生五人の方達は必ず限り

決勝戦

十文字と
対戦して

高一 葛城 洋子

夏休み前からの猛練習が実を結んで私達は、小松川、八潮、坂城を破つて晴の決勝戦に選手が来た。

決勝戦は七月二十四日ナショナルジムで行われた。今までは大学の試合を肥に采っていたが今日は私達がこのコートで試合をするのだと思ふと朝から落ちつかず気がそれわしていった。しかし試合が始まるとそれどころではなくもついても立つてもいられないような気持ちになつてしまい、たゞ試合のすゝでいくのを見ていただけであつた。前半は一点勝越して終つた。しかしこの日は前日まであんなによ

の努力をなさつた株だが十文字は実に敏捷でより早く試合に慣れ
ている株だつた。——新前の私にはこんな争しか判らない。

全力を挙げて、それが報いられなかつた時、悲しさで口惜しさ
が誰の心をも微妙に動かししてしまうものである。これを克服して
相手の策匠に拍子を送り、そして奮起の気持を持つ争が一番大切
であると思つた。この争はこの試合に於る私の大きな進歩であつ
たと思ふ。

かつたまよひがたつと縮れて 思うと残念でならない。これは、
いたような気がした。二れがこの 試合の時にあわてしまひかた／＼
試合を負けにした大きな原因だつ つと始めたのがいけなかつたのだ。
たのだ。後半、学習院の方達は 分後れを見せて動きがたりなかつ
たよであつた。そして皆一生懸命 命戦つたにもかかれらず十点の開
きをもつて敗けた争は大いに反省 しなければならぬ争であろう。
後半あと二分とい 時にはまだ 二点の開きしかなかつたのになら
して 点も用いてしまつたのかと 今度はこの試合を社会に反省し次
の試合に役立てたいものである。



正田といふ人

籃球部の人なら誰でも正田を知らない人は無いだらう。それが正田である。皆を好き、皆に好かれ、用けつばなしで漢とてとりとめのない好き

出ると仲々したくないものだらうに、人のよさと真に運動を愛する心とがかくあらしめたのであらうと思ふ。

後日私が高料のチームが編成後初めて勝つた対郡立高校戦に於て終了前三十秒位の時中距離をさめて同点とし、延長戦に持ち込んで遂に勝利をもたらしたのも彼の美しいシュートであつた。

彼の人物である。私於籃球队に入れたいたゞいた昭和二十三年から彼は現任に至る素直がうかがへた。高

料一年の頃に、彼は出来て回らない部としては最もまとまつた技術を持つて居た、技術がこれほどは当然ともなふものであると思ふが彼にはそれが鋭に思えて居た。現在彼が行ふフリースト又は中距離ショットの確実さと、射の美しさはその頃から既に獲得して居たものである。

一年の夏休み頃であつたが、あまり自分の争を云はぬ彼が、僕此頃シュートが入る様な気がする。来たいなんてうそぶいていたから相当の自信があつたらしい。

等科になつても何一つ不平を云はないでボールをみかいたり、汗にまみれたユニフォームの世話をしたり練習前にあのコンクリートの清掃をこつこつとやつて居た。こんな事は、下級生が

既に獲得して居たものである。一年の夏休み頃であつたが、あまり自分の争を云はぬ彼が、僕此頃シュートが入る様な気がする。来たいなんてうそぶいていたから相当の自信があつたらしい。

んで居る、聞けば初等科の頃は体が弱かつたさうである、今の正田の立派な体格に接する時彼の運動に対する愛着と精進に彼の面目躍如たるものをみるのである。

私達の遅いペースにひきこむ様にどのお話があつた。オニコートター、オニコートターにはメンバを落し高一の方達もみなさんお出になつた。前半の終りに18対13で学習院がリードしていた。

この試合は49対16で学習院が勝つた。

試合が終つてから港の川との試合は「三ゴール高した時ボールをもつとキープしていたら延長戦までいかなくて勝つたのにと堀コートにいわれた。

③ 三回戦、準決勝はお茶の水と争つた。

今まで何も当つた事はあるが一度も勝つた事がないので是非一度は勝ちたいと思つた。はじまる前、勝つてるといふ気がした。

オニコートターは16対4で前半は13対10でお茶の水ラストコートターも後四分で終るといふ時は25対18でお茶の水に七点リードされてた。私達は今までの様にこゝでガタ／＼となり負けてしまうのではないかと思つてた。が……学習院はいつもになくぬばりを出して、後二分の時は26対26で同点になり、その後二本きめ、バスケットカウントを得、それもきめて引退26と5点リードして勝つた。

私達はどこに勝つたというよりも、お茶の水に勝つたという事かとてもうれしかった。

お茶の水のチームのディフェンスは前衛の三人がすぐくろいて後は二人で守つてゐる。

お茶の水のミドルシュートはなげたら必ずというように入り、45と顔の人は少しでもすぎがあると投げろ。そしてそれが大分部入つてゐる。私達もお茶の水位、シュートを確実にしたい。

④ 明大に於て女子及び男子の決勝戦が行はれた。女子の決勝が先で、全日本高校選手権の時と同じく十文字と学習院であつた。

明大のコートは、コートの一部がかけていて、コートの所の天井がひくく、とてもやりにくいコートだった。オニコートターは十文字にリードされてた。オニコートターで学習院はようやく調子が出た。後半の終りには18対17で一点リードされてた。後半の出だしは悪く十文字に二三本きめられたが、その後また調子が出て26対26の同点に持ちこんだが、その後また十文字に五点リードされた。その時もし学習院が一本きめていたら逆転して勝つた。

かもしれないが学習院のミスから又、一本入れられ七点リードされてしまった。そこでガタ／＼となり九点十一点とはなされ、39対28で負けてしまった。

試合の後、反省会をした。その時、今日の試合について皆さんがおつしやつた事や堀コーチからの御注意は次のとおりである。

- 一、ホ口の時、十文字の人の内側に入れなかつたのでボールも多く、あまりホ口がとれなかつた。ホ口の時はいつも相手よりいゝポジションをとるようにする。
- 二、前日のお茶の水の時の様なねばり状なかつた。もし昨日の様なねばりがあったら今日の試合も勝てたかもしれない。

三、十文字にとつてはスリーのディフェンスはあまりよくなかつた。ワンホト等、他のもやつてみるべきであつた。

今日の試合では皆さん全力を尽くしたので負けても悔いる事はないといつていらつしやつた。

全口高校選手校、秋季高校選手校兼口体予選と二大会に於いて二度とも決勝で十文字に破れ、二位にとどまつてしまつた。これからもなほ一層練習にはげみ大望の東京都に於いて優勝をしたい。全口制覇はあまりにも大きい望なので、この前の大会、今度の大会も二位という所までこぎつけた事は非常に堀コーチのおかげであると思う。次には部員一同がまとまり、チームワークがよくとれた事だと思ふ。

女子部高等科永井記

国体予選について

女子部高等科

岡崎 壽美子

まず試合の一日は九時半より北野で滝の川と行われた。今迄の経験では最初得点するとその試合は勝つ事になつてゐる。今度もせむそうなる様にと思つていたが、嬉しくも疑ひ通りにまず学習院が得点した。私はもう勝つと云ふ予感がした。しかし相手もなかく強

女子国体予戦

試合の概略

「記者」
つ勝つた試合の時はケナセ、試合に負けた時は何も云うな。

いへ最も学習院の方が強いのですが、こちらが得点すれば又すぐに挽回すると云つた調子である。ベンチでは胸はどきどきするし、勝つゝ勝つゝと信じていただけに不安な気持、遂にタイムマーの笛がなつた。はつと思つて得点を見れば20対20の同点である。三分向の延長戦、この時程一分でも余計に時向があつたらと願つた事はなかつたらう。又23対22で相手に一点リードされてしまつた。時向はアト14分。あゝこれを買けたらどうしようと思ふと口惜さのあまり、声を出す元氣さえない。施橋さんのみごととなシユートと共に鳴るタイムアップの笛。

この時の争はとうてい口では云い表わす争が出来ない感じさがあつた。皆の目も嬉し涙ぐ輝いていた。

二日目はお茶の水、古くから伝統を持つてゐる学校だけにな

かなか落着がある。昨日と同様今日も私達が最初に得点した。だが問題は今日にある。最初私達がリードしてゐたが相手もそれ位中気だと云う味にどろどろ得点されてしまつた。25対18と相手が七点もリードしてゐる。しかし私達もなかく落着いてゐた。とん／＼挽回していつた。遂に25対16の向点からもり／＼とポイントが出て遂に私達がリードし始めると26で勝つ争が出来た。今日の試合を見て何代益しく思つたのは一時七点ものひらきがあつたの

これが部長さんの考へであるらしい、記者もこれにしたがつて以下を書いて行く。故に感傷的女性は見るべからず。

八月二十九日 対滝の川戦

一達田山崎原 取勝 最初のタツ
バ伊脇秋地上 勇伊 を取られ

XFFFGG FFF 滝の川の物

点院 25 11 9 10 川の早さに

習学 25 11 9 10 川の早さに

得学 5 1 4 滝 学習院チー

ムバランスがとれずオコーナー

から苦戦。これで部で二位かと思

われるほどである。そこで学習院

オコーナーと対ウと滝の川にリ

ードをゆるしてオコーナーに入

つたがちよつとしたゆだんにとん

どん入られ、ハーフタイム直前

の伊達の巧妙なホストポイントにや

つと26対16と一点差に迫る。オニ

に落着いて、最後までねばつたという事だけが嬉しくて仕方ない。今日は皆さんとてもまとまりがあつた。この気持を忘れずに明日迄持つて行きたい。

試合才三日目(三十一日)今日はいよ／＼決勝である。なんだかそれ／＼して落着かない気持で明大へ向つた。試合は一時半から十文字と行われた。この前も決勝で十文字に破れたのだから、今度は大丈夫だと思つていた。しかし残念な事に今度も破れてしまつたのである。才三コーター迄は同点であつたのに、口惜しくマ仕方がない。今日破れた大きな原因はどこにあるかと云えば、昨日の試合の様に最後のぬばりがなかつたという点だと思ふ。しかし皆さんベストを尽して下さつた事には大いに感謝している。今日の試合で相手に得点された時、張り切ろうという気持は皆さん持つていらした様なのですが、どう云うわけかそこでがたつと落ちてしまつた、あそこでもう少しファイトがあつたら奮闘行きも可能であつただらう。でもいつ迄も負けたからと云つてくよく／＼してはいけない。今は破れたとて又の機会があるではないか。それ迄一生懸命練習して今度こそは十文字と当つても勝つ様にしつかりしよう。栄えるものも遂には亡ぶという事があるのだからみんな元氣を出そう。

最後に、坂さんが長い間あれこれと御指導して下さつたからこそ

コーターではもつと面くない試合であつた。点こそ差はなく得失にみえるが試合はおさまつ。たゞ、学習院の上原から同じくガードの橋崎にパスが渡つた時、Fの脇田がポストに走りパスをうけ、ゴール下にまつているFの伊達にパスしたスピードはすばらしかった。

こゝで初めて学習院は12とリード、才四コーターは最後だけありファイトのある試合であつたが学習院の一寸したあせりで一ゴールの差とれてしまひ、伊達の五ボールあつて試合上手の学習院もホロを出した。伊達にバリ高城が入つたが、すぐ伊藤と交代。さてあと九、学習院二点のリード。このまゝ押し進めるかに見えたが池田の川四番の苦しませの長距離キックが成り同点。F伊達がいないので延

決勝迄行けたのだと思う。これには一同深く／＼感謝して居ります。それから、三日間毎日応援に来てくれた男子部の方々にも感謝して居ります。

国体予選を見て 石和 俊夫

女子はいつも決勝まで進むがどうしてそんなに強いのか、優秀なプレイヤーがそろつてゐるからだろうか、そうしたら他校にはすばらしいプレイヤーがそろつていて学習院にまけるチームがざらにある。そこで私は考へた、いや私だけでない、他の人々もよく口にしてゐる。

学習院チームの強いわけ

先ずなんといつてもチームがまとまつてゐる争が第一原因であらう。次に皆が練習を熱心にやつてゐる争である、それにくらべて男子は困つたものですね、こう言う私もその一人ですが。

さてチームがまとまつてゐるの皆の仲が良く気が合つてゐると云うだけでなく一人々々世のある人物があつまつて完全なものになつてゐるからである。ショットの入るもの、ホールの強いもの、リードマンと、だから一人がかけるとチームはかた／＼である。それではどんな世のある人物がゐるか、私の見た目で云うと、

長になれば學院愛ふし。ついにホイスル。20対20。延長三分間。タツアをとり学院またも苦戦。両校あせりすぎボール脱出、池の川アリスローよくきめて一点リードのまま残り一分。學院敗れるか。残り九秒、八、七秒、時間なし、學院敗る？ 六、五……學院Gの稲崎がこの場でゆつくりホールをキープ。早く々と見てゐる者の顔から汗汗汗、三秒前にツートと稲崎がボストヘッドリアルで出て無理な体勢からショット。入るか？ 落せば負ける。ホールはスーと空中にまい上りそのまゝリンタの中に入つたのだ、と同時にホイスル。勝つた／＼土俵ぎわのうつちやり決つて學院勝つ。勝つたのだ。へ本当です。

先ず体力的にすぐれホローに強い。タツプ、ボールのキヤツチは都で一三位をあらそうほど巧妙、しかしあん外に気が小さい。たいに、ごういんながホストシューズはみせない、それだけにシューズは確実。

FのWさん

巧妙ですぬ、どの試合でもかならず三つはルースボールを取りますぬ、しかし少しお腰が高いようですぬ、又自立たないが輪々と得点を重ね、よくフリーヌローを入れます。

CのAさん

なにしろ身長がぬ、背は低からず、なのでホローがトバすにとれるというからうちやまじいです。又、準決勝など身長を生かした頭上からのシュートがバリジャンにきめますからぬ、オフェンスはとんでもぬもとどかない、と云つて試合場にはいごは考へものなのでぬ。たゞゴール下でホローを取つてからの動きを早くすると名選手、それ外からアタツクされてもあわてず、GのNさん

試合中はいつもむつくりしている、オフェンスがおそれているうちにシートという手がありますからぬ、又リードマンとしてはじないほど落ちついていて、アタツクなどなくわぬ顔で名スイント、パスがどつちにくのかわからない、ミドルシートは確実、礫石

学習院 49 - 16 南多良

先取点を奪われながらもTEAMカ、個人技術に充分自信を持つて落ちついた攻守を展開する学習院、前半十分で早くも南多良を圧倒。

これに反して南多良は学習院得点の度にあせつて後半遂に自滅、四人まで新人の学習院に点を加

えることが出来なかつた。実力に滝の川を破つた元気を加えて準決勝に勝ち進んだ。再度のMEMバーチエンジンにも拘らずコムピネーションの見事なのが目についた。

これも真面目な練習の賜物である。なんといつても三年生の個人技術は見事。新人群の大活躍——獲得点の1/4以上、一四点。

学習院対お茶の水戦 準決勝

学習院 31
 10 15
 21 11 } 26 お茶の水

堀さんの初見でシン三りと語り、
涙を流した事等を回顧して深い
感情で全員をおし包んだ方が余
程うたしなのであると云う事に
気が附いた。

僕らはあまり附居の人達との
間に活発な交渉を持たなかつた
為、伝統ある定期戦としては、
些が親密感に於て欠けている所
があつたのではないかと思われ
た。こ此からの附居戦は、大い
にこの事を考慮に入れ、お互に
宿敵としてではなく好敵手とし
て在つて欲しいものだ。

あれから既に三ヶ月が過ぎ去
つてゐる。今こうやつてラヂオ
に耳を傾け乍ら聲を聴つていて
もあの時の複雑の生々しく麗々
たる記憶が蘇つてゐる。

附居戦を 應援

する

女子部高等科
A 生

前日の快晴にひまかえ、小雨が
レとレと降る日曜日、伝統あ
る附居戦を応援する為、友人と
共に北園へ向つた。ラヂオの電
車の中でこんなお天気の日にあ
後に来ても勝てなかつたらがっ
かりねと昨年の情けなさを思い
起す、ろうごくのような運物と
聞いたがまさしくその通り、雨
の中にぬれてゐるのが一種冷い
感じを与える。ユニフォーム等も
りりしく元氣一杯声を出して、
ハイミンクアツアツをしてゐる。
何か緊張感がたゞよつていて
頼もしい感じ、試合の時もこん
な熱意とナイトがあればいゝけ
ると思う。いつか不思議に思つ

た。あれから既に三ヶ月が過ぎ去
つてゐる。今こうやつてラヂオ
に耳を傾け乍ら聲を聴つていて
もあの時の複雑の生々しく麗々
たる記憶が蘇つてゐる。

院	6	1	8	字
習	17	11	18	文
学	24	1	24	十
計	45	0	17	28

Ⅰ	0	0	0	6	0	0	6	0	0	6
Ⅱ	4	3	0	4	0	0	0	0	0	0
Ⅲ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅳ	0	1	0	3	0	4	0	0	0	0
Ⅴ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅵ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅶ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅷ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅸ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0
Ⅹ	0	1	0	4	2	7	0	0	0	0

めものらしい、*四コーターは伯
人のもつ最大の力を出すのでチー
ムのまとまりより伯人のスピード
が得点を重ねていく。全体的に見
ると今の格闘が突にがんばつてく
れた。負けたので気の毒である。
初めのうちは一点差や同点が多か
つたが学習院は初から押されてい
た。それは点をいつも先取されて
いながら、相手はナイトすると

事は練習を覚えていると強そうに

罵うのには試合となる何だ

かおじ氣がついたようになり、

ボールに対しての執着も失く

なつてしまふみたい。やはりそ

の点女子の方があつかましいの

かしら？ 附屬隊ですかに大勢

来ている。二階席後席一杯だ。

大きな聲もある。興奮が、拍手

と共に選手入場。この鳴人等な

ららなんとも云えぬ歌はさうけ

た。先生方のおことばはについて

カツア返還、いよ／＼試合、コ

ート一杯にひびきわたるホイス

ルの音。おねるような拍手。し

つかりさんばつてねと心をこめ

て叫び、負けられない、責任感

この試合を最後に臨に別れを告

げる方達。そう云つた感じが見

ているきについてもの試合と異つ

た感に手をえた。

羽生田さん興奮なつたのの

鼻血を出しておしまひになつた。

昨年の試合に比べると赤坂甲斐

が有り過ぎておいていやく／＼

する。高橋さんの五ノール、想

壯な様。終りにはどう／＼おと

なりの幼子の上に立つたのどが

痛くなり声は弱くなるほどに

振した。のほど／＼やぶれて

しまつた。でもあつた夜よく歌

つて下やつた。

樹金武、目の前でみす／＼、

カツアをもつていられるなんて

どうして勝つて下さらなかつた

の、と心の中で叫んだ。そして

がっかりすると同時に急に眼寒

さをかんにて

セーターを羽

織つた。



なにくそとミドルを入れる。しか

しそれでは強だ。同点なら先にシ

ートなきめた方が試合と、完に来

である。故にオーゴーターのメツ

アを取るのと取らぬのとは試

合がすつと変つてくる。又監督は

たくなりシートをあまり投げま

なかつた。伊達さんなんかもつと

ポストシートをしいのではな

いか。シートが少いのは少しあ

つていたせいかも知れない。そこ

でチーム全体が早く折の調子に帰

る事が重大な事となる。

この試合が終つた時、せつかく

こゝまで来て又買けたと、くやし

いよりチームプレイヤーに氣の毒

であらなかつた。残念です。

来年こそは、一二年の人はがんば

つて下さい。

（どうも主観的になり記者は書かたし）

ツマラナイハナシ (初無)

高等科へ佐田 恭正

三度廻り来た附屈戦。今年こそはと、心に誓つた附屈戦。幾度も夢みた勝利の栄冠を、遂に手に入れることが出来なかつた。天は人の上に人を作らずに併し、神は上の上には上を作つた。これ如何せん。

この熾烈に口惜しい敗戦を語り綴るに當つて、入部以来のことが走馬香の楳に目に浮かんで来た。だがその全てを書くと勞を煩つて省略し、想ひ出を辿つて去年の頁を開く。

思へば去年六月、成城コートで苦杯を嘗めて以来、今日の勝利を胸に描いて練習に励んだのであつた。敗れて悔のない戦いであつた。と先輩方は云われた。成程左右かもしれぬ。否その言の通りである。併し、僕一人に就いて考えると、何とも云われぬ無念さが込められて来る。それは何故か？ と考え、筆ならぬペンで走らせよう。

去年夏、埼玉會を期して高等科は大学と合同の練習試合を諏訪でたうことになつた。その頃、身体

修治中の僕は合宿に参加しても無意味であると思つたのであつたが、何と云うこと無しに行くことになり、そして自分の任たるマネージャーも袴井さんに任せきりで、何の用も累さずに歸つて来たのであつた。合宿前の練習の時から、唯練習を見ていると云うことに耐えられなくなつて来た。何故かと言ふとそれは少なからず喧嘩の記憶だと思つたからだ。僕の變な考えは次の故であつた。即ち、練習を思ふ学することの意義は、不幸にして練習にアレイと、参加出来ない者が次の練習に備えてその内容や、細かい技術を覚えることにある。と、であるから、僕に為成なり何なりで練習出来ないものは、皆の志氣を奮起する為にも是非其意を必要と感ずる。併し、僕の楳に何時になつたら練習出来るか分らないが練習を見つて何の爲になろうかと思つた。それが小生の僻であり巨つ利己主義な考えであると言ふことは分つていた。だがその時は、運動禁止と云う名の如くに堪つていゝ加減クサツテいた僕は、と雖もすると「いつもいかに知れないか」自分勝手な事を考へ勝ちであつた。スポーツマンへホドホドイです

のね)ならば、こせくした事を考えない様にしろ
と思つたが考えないことは出来なかつた。

来年の附屬教員全口任職を目指して、皆が練習に
動んでいる時、僕だけは徒らに心が動揺し、皆とち
ぐはぐな気持ちだ。それ故、練習など全然見る気
がせず、自分の責務を果すなくして、日々を過ごし
ていた。秋の常備科大会を前にして、高等科の練習
は気分的に緩んでいた。僕のたらけていた事は申す
に及ばず、高等科蹴球部全体がだら／＼していた。
その時候の許へ、或る先輩よりの激烈なお叱りの手
紙が舞い込んで来た。手紙の一部を引用させて置く。

尙早 部に入つて以上、部の生活に自分の生
活を持つてゆかなくてはならぬ。高等科の学生に
もなつてそんな事が分らないのは情無い。マネー
ヰーであつたら練習はしなくとも、常に部員と共
に行動し、出来得る範囲で部の義務をし、又、時
には一語に駄弁り、又試合の時には共に一喜一憂
し、練習の時には共に苦しむ。左右でなかつたな
らば練習をしない運動部員として意味がない。全
く練習もせず部室にも又コートにも姿を現さない

奴 気が知れぬ。やる気がないのなら、さつさと退
部すれば良きそらなものに。(後略)

大体この様な手紙を受け取つた時、僕は、この様
にまで云われた自分をさげすみ、目つ嘲笑い、そし
て怒り、憤つた。一体全体どうしたならば良いだろ
う。一寸焼英になつた僕は、いつその争部を辞めて
しまえと思つた。タカネ、そこで私は考へた、吾が
行状記を深く反省し、可然き結論を出す様に努力し
た。が、意志薄弱の僕は、何ら結論を出さない終に
文化祭も過ぎ、冬休みも近くなる迄する／＼べつた
りに部にくつ／＼していた。この様な時に、吾が親愛
なる某医師は、僕の健康の回復を認めて呉れ、併も
運動をしても良いと云われた。そこで吾び勇んで？
学校の体操をする様になり、又練習の方も少しづつ
行うことにした。べこの時の自分の怪拳が悔まれる。
こうなると何と云う現金さ、退部など云う事は少
しも考へなくなつた。唯、再び健康を損ねない様注
意したつもりであつた。

そして春彌生、太田台宿を前にして、又もや医者
に余り無理をしない方が良いだろうと宣告された。

何と云う高望らしき。自分の慎重でないことが余りにも馬鹿げてへ程々、もしく馬鹿だと云う奴はいて腹が立つた、悲しかった。合宿に行く事は諦めねばならなかつた。所が、部長諸君があの手この手と参加する様に仕向け、まゝに精神的肉体的産弱兒童は合宿に行くことになつた。併し、例に依つて例の如く僕は急慢であつた事を認めはならなく、帰りの道「マネージマー」の責任を果しとらんぢやないか」と云われた鈴木先生の一喝は未だ脳裏を去らず、本當に自分を情無く思つた。

新学期となつた、学期始めの慌しさのうちに春の尋常科大会を終えた。こゝに於て、吾が喜びが待つていた、即ち医師の診断の結果だ。医師に全治したと云われた時の嬉しさ、。附屋戦を二ヶ月後に控へ、併し映画会の爲に種々忙しくなつて来た。だが練習は止めていた。止めはいたが、レたくてまらなかつた。何故しなかつたかその理由を列挙すると、前の様な悪行を再びしたくなかつた、練習をすると思ふに疲労し後で何も出来ない、陳辨つとめたが家の者は宛に病、部を止めなさいと云つた、お

かしな考えだが僕は附屋戦を目標にしていたので最早遅いと思つた、三年ともなれば少しでも勉強とか云うものをしなければならぬと思つた。へ今でも思つてゐるのだが、世の中はうまく行きませんデス。反面少し遊びたかつた。少しと云う言葉に味わいがある。こんな考えは、附屋戦を前にして催されたミーティングで勿是正さされて了つた。その晩は遅く迄興奮し、併も満腹で皆と云い合つたので何と云つたか覚えていない、併し次の月曜日から練習することになつた。吾が意志の薄弱を笑いたいものは笑え、胸魔棒が舌を引抜いて呉れるだろう。ワハハ。ハハハ。

再び練習々々の生活が始つた。皆が打倒附屋を目指して頑張つた。部室の壁には「打倒眞族」と誰かが書いた。だが附屋の試合を見に行つた時、彼らは強いと思われた。

テニスに依つて幕を落された対附屋綜合定期戦は下馬評に反して学習院は健闘し、野球の快適な勝利に酔つてゐる時には、我々の一戦で勝負がきまる破目に落つてゐた。学校の夏、の諸君の激励に、籠球部全体が大変緊張し、獲られぬ白夜ならぬ為

の夜を強いて眠つて、本院に集つた時は、皆折から降り始めた雨にもまけぬ張切つた頬を濡らしていた。

北園へ、と草木は群がなかつたが、我々は出掛けに行つた。逸る心を圧さえつゝ、堀コートの作戦を伺ひ、コートで練習し始めた時は、アカツテいないとは云うものゝ皆可成アカツテいた。

兎も角、試合は始つた。センターブローイングがパリツと止まつた、でだしの良さは、我々に勝利の女神がチヨツト微笑んだかの様であつた。僕も一所懸命やつた。あんなに物事に一所懸命になつたことは、そんなに無い。頑張るだけ頑張つた。鮮血が出た時、それこそ「畜生！」と思つた、だが負けた。試合終了のホイッスルが鳴つた時、そしてツーゴールの差で負けたと分つた時、一瞬ホーッとした。負けたのだ。我々には同じ叫び、そして又響き別れた「負」と云う言葉も、この時位不見目な気持ちで聞いた事はない。あのフリースロー、あのドリブル、果てはあのパスと後から後へと残念な場面が思い出され悔まれた。と今度は肘屋敷は終つたと云う聲が頭を拍げて来た事は事実である。

最早嫌ない明日起きられないのでこのツマラナイハナシを止めることにしよう。この辺りで早く下さつた方に感謝する。何分にも「オギャー」と云う者へ非ずるを發してより以来、看く、読む、教えると云う事がNEVERのこゝな僕が書いたものですから。即ちの様に空虚な字語の羅列と成なり、併も小學校生徒の綴方の様に「」でしつぽして煩したことをお詫びします。

最後に、種々お世話になり、又お世話になる鈴木伊藤、渡辺、三先生並びに、正山、牧、広沢、上原各先輩、大学、高等科の各先輩現役に感謝し意を表してパンを掲ぎます。

或る先輩へ、お守紙の一部を贈りて拜借し、且つ少し書き直してまとめましたことをお詫びします。

一九五二、九、五 (おほり)



附屋戦を顧みて

高三 大久保 直重

今の三年生が、つまり我々が一年に入つた時の高等科籃球部を振り返つて見ると、玄沢さん等の少人数の所に、その時の二年として宮田さん一人ぐらいであり、定に淋しいチームであつた。そこへ全然部生活に初めて的一年が入つたのだが、三年の方々が止められ、二年生は一人と、フランクが出来、部としてもまとまらずに夏休みとなつた。

大切な夏休みの練習に出る者が少なく、チームとしてまとまることなく過ぎ、ほとんど一年のみの、レかも人数の少ないチームとなり、試合はいつも預けていた、そこで更に故障者が出て新たに部員を入れ、やがて春の合宿になつたが、やはりそろそろ、新学期に新たに一年を入れたが、まとまらずに附屋戦となつた。

附屋戦後、人数の点では相当多くはなつたが、やはり皆の気持が合ひ、皆が揃つて練習する様な事は少なく、夏になつた。夏の合宿ごろより少しはまとまつて行つたが試合においてあまり好ましくなかつた。

こんな風に常に故障があつて部員がまとまらなかつたため、部としてもなかなかまとまらなかつた。しかし皆の気

附屋戦権観

H.K

★ 当日、北國高校の前に朝日新聞社の車が止つていた。『ほゝお、新聞が扱うまでになつたのか』と氣を良くしている。何の事はない。板橋区美人コンクールと偶然会場を同じうしたまでの事であつた。

★ 全良、紺の टीア を頭に戴いての晴姿、川村女子学院のフエイボリソトストアにて求めた物であり、一人前十四也。

★ 去年に引続いて白のユニフォーム。それも去年使つた奴その終である。色物を新調しろの、番号をつけ変えろのと五月詭い事。女でもあるまいし。兎術、高校生というものは洒落気出すので困る。

★ 二階の一隅に陣取つた女子部の面々、共に声を喰つての応援には感謝感。他の男子共が黒装束であつた為だとは思ふが、あの一荷だけが時に目に附いたのは

持が崩う秋になつたのは耐屈戦を回近に控えた時だつた。定際少し遅かつた。しかし全体の耐屈戦においての学習院の予想以上の成績と、皆様の激励と御声援によつてあの様な成績となつた。

結局初めにまとまらなかつたまゝで夜迄づる／＼と伸びてしまつた。これは何々の精神的ミスが足りない事ではないだらうか。又一旦ある争を始めたら目的に對して最後迄つらぬく勇氣と氣力を持つて進むべきだ。僕個人として一年の頃は大きくして重要に考えなかつた爲へ凡も外に用事があつたが、合宿に参加せず。今日なほ後悔してゐる。

各自が以上の争を自覚したら、各人が責任ある行動へつまりその部の規律に従つてゝをとる事によつて練習に於ても、皆が揃ひ、辛いが楽しいものとなり、部の発展が計られる事を信ずる。

耐屈戦に負けたのも、技術的な面もあるが、更に精神的な影響力が大きいことと思ふ。そこで我々は部でまとまつてどこかへ遊びに行くとか、ミーティング等を行ふことによつてお互が更に親しくなる様に計るわけである。今度二年以下の方が大いに頑張つて、皆の期待に答へる様に努力されることを望む。

不思議な極み、

★ 好調のスタートを切り、大分落着いて對手を観察すると、アルノ、体を震わしてゐる。此奴め上つてゐるな、と思つていたが、向うはこつちとどう見ていたか。

★ 肉会式では、ウマ／＼とカツプを掠め取られ、二度続けで編らざらに苦杯の苦々しさを充分に味う。

★ 女子部からバナナを頂戴。何時も頂くばかりでどうも。丁度一人に一不づつあつたけれど教えて貰つたのかしら。

★ 堀元宅では落花狼藉。首を垂れ、目に涙を浮かべてはいても、前にある菓子皿は瞬く間に只の瀬戸物となり、そばの蒸餅は視界を遮ぎらんばかりに堆く積み上げられる。

★ 三々五々人数は減つて行つたが、部員数名は持向に同籠つて何時かな動こう

附屬戦後記

高二

毛利 元海

懺悔録

目標は全口制覇と云いながらも我々が無意識のうちにも第一の目標としていた附屬戦、その附屬戦で今年も又も苦杯を喫してしまつた。

しかもその敗因の中に我々二年生の無責任な行動が大さく浮び上つてくるのは拭い去ることの出木ない事実である。そこで我々は一年生諸君が再びこの失敗をくり返さぬように、当時のありのままの事実を記す次です。

今年の三月、まだうら寒い太田の地でもほとんど全員参加のもとに行われた台格練習、この台格に於ては練習こそ一生涯命にやつたが日常の生活態度、特に時間的觀念に關する限りはまつたくセロであつた。今から考えると、結局、これが後々まで残つていたような気がする。

さて台格も終り毎日本院及成瀬商校のコートに於ては倒附属を目指して猛練習が行われていたが、

我々はその2番とは参加していなかつた、それについて練習に出なかつたのである。結局、人々々の意志があまりにも弱かつたのではあるまいか、他人はどうでも自分だけは、と云う気持は毛頭持つていばかつたのである、逆に他人は出ても自分は出ないと云う争ひにかけては至つて強味であつた、つまり他人は出ても自分は出ない、他人は出ても自分は出ない、つまり自分からは絶対に出なかつたわけである。その上、二三年生の練習を逃げる事にもスリルを感じる、と云つたようになつた。スリルを味いながら突にさちんとその日／＼の練習をサボつていた。しかしその我々も附屬戦の月ばかり前から練習に出るようになつた、と云つてもその理由は階段口をふさがれて毎日、かまへられる破目に陥つたからであつた、勿論、こんなわけでもやるより、やらされる、と云つた感じの練習だから当然熱の入つた練習になるわけはなかつた。目を見れば、毎日本ホールをさがらなければならぬ。目をつま三年生の練習は真剣さを加へて行つた、我々も我々は自分達とはまるで別世かのバスケツト

今も忘れぬあの時めの気持、東 昭
 敗れた鳥の惜しさ悲しさではなかつた。たゞ無意味
 に全身に込上つて来る悲しさであつた。籃球の球を弄
 り始めてから約一年、社会人となつてから正しくスポ
 ーツを理解し、又楽しく見栄しく遊べる様にと入部し
 たものゝ日増に籃球に対する愛着の念は薄らぎ始め、
 附屋戦の二三週回前になると練習の時など自分自身を
 意識する事すら出来なくなり、多く行はれた練習試合
 などでは自分丈が外れた事をやつてゐる様でどうして
 もチームに溶け込む事が出来ず籃球をする事すら辛く
 感じられた。狭いコート内で沢山の者が行う先技故に
 テームワークが一途重視されねばならない、それ大
 に僕の立場は辛く、退部を願つたが勿論聞いてくれる
 筈はない、仕方なく努めてチームに溶け込めようと心掛
 けて試合に臨む外はなかつた。然し当日目白に全員集つ
 た時には意外に気持は軽かつたか、試合が進むにつれ
 てやはりこの事が頭に懸り思う様に動けない、コート
 する瞬間にその手を凍めてしまふ。
 この様に僕にとつて附屋戦は苦い想ひ虫となつてしま
 った。

（筆者は高三）

を思ひながら非常に気あくれを感じ出した、
 そして又練習を理由を休つては休む様になつ
 てしまつた。こんな様々が三年生のお陰で勤
 く真面目な練習に溶け込んで行つたのが附屋
 戦の一週回前、あまりにむおそひつた様です。
 こんな事情のもとに行われた附屋戦、負けた
 とは云え試合自体は予想もしない程立派なも
 のでした。ベストをつくしきつた三年生の明
 るい表情、これに反して僕々は表面はとも角
 暗澹たる気持で試合後の部会にのみまました。
 そして皆さんの一言一句を聞くにつけ頬を上
 げる事すら出来ませんでした。
 そこで、どうも一年生諸君、僕々のこの失敗
 を生かして明日といわず今日から我々が一語
 に頑張つて下さい。終始真面目な練習にはげ
 むことによつていつしか栄光の日を迎えるこ
 とが出来るとしよう。

（三五頁下段ヨリ）

ともせず、草も床に入る子の刻、十二時、
 ようく、膝を上げて脚解致とはあいなる。

華やかな風景

漫筆女子部附屋



男子附屋靴の熱心さめやらぬ書

葉の煮る六月二十日、女子部附屋靴ともならば、その内容と共に期待されるのは当然の事、何方のそば降る雨で、凸凹のコートを取巻くうち若き男女学生百名余り、定刻を過ぎたのに、文句をまう者もありません、今や試合開始を待つばかり、籃球部の特許行使はこの時と、中央特等席に膝を下ろしぐるり／＼と周りを見廻す。オオ、男子意外の進出、とうも男生の足は生まれつき戸山の方を向いているようです、それを取り巻く

高橋

女性の調服・まるでお花魁の華やかさです、気遣われに空もいくらか明るくなつて、レフトリと流れたスラントは流きやむら女性がお化粧直しをしたかのように、真白なラインがくつきりと浮んでいます。

* * *

肩の後ろで声が出る、胸のあたりで語らいがある。

「附屋つマエのはどの程度のチームなの？」

「まあ全買が二年というし、試合経験も少いぞうですよ。」

「すると、大したこたアないな。」

「まず学習院の一方的勝利だね。」

「たゞ未知数の」

魅力つマヤツで

すなはちそれに女性の

魅力というわけではハハハハ



さて、両軍の選手の入場式、万雷の拍手にまず右から学習院、左のマークで胸を飾り、真白のユニフォームに紺のロングスカート、アチラの流行をとり入れたスワートの長さ如何なく発揮してしすど入場、主将橋崎さん、そしてその後には外口婦人かと見まごう長身秋山さん、そして伊達さん以下、ダンダン短艇な日本女性となつていくようです、キツト口を詰んで真直前のかたの髪型の型を見つめ胸のときめきをそつとおさえてはにかみなが次々と進んで行きます。

さて左側はと首をのばせば附屋高校女子チーム。

白のユニフォームに紺のパンツ、そして、頭にくつきり白いハチマキ巻ちてしまむの意気上り、さ

フそうと入場です。

やがて両軍整列、先生のお話、チツトも向えませんが、それが済むと両軍「禮」オヤッ後ろの短艇の選手達はお話の終つたのに気がつかないと思えて、みんなの後ろからあわてておじぎ。

いや、和やかな風景です。

* * *

両軍の練習開始、

ウスターズ左側の附近



のランニングシートが始まると、いやその美しいこと。可愛い小犬の足跡の様な桐陰のマークに、胸をかがり、生きのい、ピチ／＼とした若い肉体を純白のユニフォームでキョーツとつゝんで、黒い髪をなびかせ、張切つています。

「X番がうまいですね。」

「いや、XX番ですよ。」

「僕は絶体XXX番だ。」

まるで自分の所有物かのように、マワリの雀はうるさいこと。

一方、右側の学習院は、

「ネー、皆さん、しつかり行きましよう」といふ又、元氣。

学習院絶対優勢の聲に、その美

しい眼は、勝利への確信に輝いていきます。

ソレッ!! 試合開始。

「ピッ」と高らかに笛はなりました。

学習院、白のユニフォームに紫の

たすきをかけて必勝を期すれば、ベンチもスタンドも、今はキヤーキヤーと黄色い声の応援!!

学習院リードと見るや、コマド

リがとまったように綺麗にベンチに並んだ彼女達は突に朗らか!!

たゞ感激性にとんだ若き女性の

美しい体躯がまるで飛魚のように

飛躍し、肉体と肉体とをぶつつけ、合い、たぐいなき面白さのバスケ

ットボール競技にとけこんでゆく姿は見るもあでやかに展開されていきます。試合の経過結果は皆さ

ん先刻聞承知の通り。

「やはり実力の相違だね。今日はみんな予想以上の働きだったね。」

「でも附属チームのまけてもすまない真面目さには頭が下つたね。」

「とにかく両軍よくやったね。」

勝つた学習院女子チーム、男子

軍から勝利を祝しての贈りものを受けて嬉しそう。辺りの人も消えぬれば、横目で辺りをはつきりなが

から綺麗な口唇で果物をアツンとかんで後はたゞ勝利を面に大はし

やぎ。いやはや何と華やかで、又

にぎやかなことではありませんか。

女子部附屋敷

女子部高等科

K 生

紙を置いて定例の方から中の方へとお天気を知らせ

合う。お昼休になるとどうやら雨も降らないらしい。

昨夜。はらつと晴れたよいい天気になりまうよう

部員総出で雨の為にふる／＼しているコートに砂をま

に、と祈りながらねたのに今日も今にも降り出しそ

いた。

うなつゆ時独特なお天気である。早く降るなら降つ

開会式も終り、コートで真中に並びあいさつ、コ

てしまえばあきらめがつくのにと思つても仲々そう

ートのまわりにはたくさんのお後の方、必ず勝てる

はいかない。授業中も外が気になり先生のお講義も

のにはやはり皆の脚はドキ／＼する。トレーニングも

そつちのけ、お互いに先生が横をむいていらつしや

終つて試合開始。

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

センターホームエイションをきめて成績のよい

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

スタートを切る。オーコート 16対0 オ

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

二コート 20対7 と完全に附屋敷を圧倒、

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

高等科野球部員全部出場。一回ハスケツト

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

附屋敷は 41対19 で快勝した。

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

今迄はりきつていた気持ちも試合が無事に終つ

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

たという安心感のみに支配され、勝つたと云

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

う快感もあじわえずに後かたづけ、お教室に

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

集まり高等科からいたゞいたサケランボ靴を

る時を見ては顔を見合せ、目でうなづきあい、又手

いたゞきながら皆の話はすでに、インターハ

安田健次郎君のふるふる

T.K

勉強させておくのはモツタイない種な体格と運動神経の持ち主である。神宮大会のバレーボールの名手であつた手は有名であるし、其の他野球、サッカー、タツチフットボールeもcもeもc、何をやらせてもキビ／＼れた名アレーマ見る人をして驚嘆せしめたもので、体操の時向になると張り切つて居た人である。バスケツト

は高等科へ入つてから始めたらしいが三ヶ月位でイン
ターハイの立役者になり当時の我々を哑然たらしめた。
性質は明朗活潑温厚であるが、それで居て妙にデリケ
ートな所があり、その為か初めの中は一寸煙つたとい
人の称にも見受けられる。所がつき合へばつき合ふ程面
白くなるのがこの人である。又非常に慎重な所のある
人で、合宿中皆の頭をたゞいてから「ポン」をしたの
は有名な話である。「石橋をたゞいて渡ると云ふ話だ
ある、それと同じ事であるが、よくわからぬ人は先
輩に聞くべし」更に新話を創作するのも名人で部員
一同大いに喜モうされたものだ。大事な事を一つ書き
忘れたが、非常な勉強家で特に語学は大したものであ
る。今にきつと医学博士になられると思ふがその節は
どうぞよろしく。

——(夜三時)——

滅せんよ ちぢせんよ

高等科

松本 速夫

三月経つた今になつて人もあろうに志烈な記憶力の持主
である此の僕に附屈戦に就いての感想とやら反省とやら何
でもよいとやら……。

自白の附屈戦の方が戸山の附屈戦より如し
くない。だから自然の法則として当時の模倣
は反因^{反因}を付けても戸山の方を能く覚へている
確な気がする。但し話に聞くと、と云つても
既稿した人の話だが、戸山の附屈戦の方を皆
が書く筈でないのに書いてみると云う事は僕
に覺へてない事を覺へている様に書けと云つ
ている確な気がする。

何でむいゝとやらの言葉に忠実になつて全
部ひつくるめて、と云うと大衆派に於全部頭
に浮んだ事を書かして頂こう。元来一つの
のに打込めない僕であると同時に何にでも興
味を持つ僕であるので話に主旨のない事は、
書かない先から知つてゐるし又読まない中に
覺えて置いて頂きたい。

エート部の費用は沢山常に有りたいため
是が為大学とも当時一寸揉めた。とつちも言
分は妥当なのだがどつちも自分の方が可愛
いに思つた事である。高等科としては後に読
く二年の事を考へた結果の事であり、大学は

高等科の二の差をしないが爲の事前專業の練なものであつた様だ。どちらも部の争を将来に就いて心配してゐる事に受りはない。現任は勿論である。期待と監督の掛掛が川村で廿四日に大体済むと彼は毎星戦を待つ許りである。茲に又心算を考へる筈はない問題が起つてゐた。コートの問題である。予定は七日ナシヨナルシムで盛大に挙行の筈だつた。当番校は附属だつたがこつちも大いに熱かされてしまつた。此の予定は我田中教官の期待の場であつた。彼熱心にも不意になつてしまつた。次の予定は瓜城高校であつた。足成は変な向ふの云々怒りから当方共附屬と学園院は敢然と拒否した。と云うのは定期戦の前に瓜城と試合をしてく出との事だつた。それならば酒下と云うのであつた。瓜城高校の首分は尤も也とみだか融通の効かない争ゼンマイ時計と変らない。又予定を変へ明大、九段必死となつて頼んだらしいが皆ノ一コメント。Y.W.C.Aも駄目、漸々日改まりまして日旺八日北園高校と決定。多分定つたのが金旺ハ土旺の話。籃球大が他の附屬校の仲間から独立を主張したみたい。其の向にも深刻な問題バスケ

ツトを止めるれ続けるか、遅く迄話し合つたのも度ならず、せめてインターハイ運は、の争で納得したのも、ア、其時は一年間出場停止問題の憂き目を眺めてゐる今日である。又、ウイニオンポールの争も僕が中に立つて両方から適當な理由を拜聴して迷へる仔羊の身になつたりした。愈々当日となり、氣遣つた天気依る出足も思ひの他で紅白入り乱れた応援の中に戸山籠球部算も殆んど姿を見せて選手の意気雄壮上にも高まり、両軍喚声の嵐の中に顔面紅潮して珍らしく生ひくしく目つ発利元氣であつた。敬だ。科長トシちゃんを初め鈴木伊藤諸先生皆含めて十人位も見えた様だし先鋒も沢山頼を合せた。

さうこうする中に試合が始り白熱戦を展開しては極であつたが観ていた席に所端上つてゐたのか、それにも増して非凡な記憶力は全然試合経道を何処かへ迷してしまつた。唯々印象として最後迄感じられた事は一生懸命皆能くやつたど云う事である。敗はしたれども悔のない戦ひであつた。本当に今迄何回か観て来た試合の中で敢て最高級の語を使へるのではないかと思つた。

人に聞かれても実力の相違、練習不足は改し方ないとしても良くやつたの一語に尽きるとしか云へなかつた。僕達としては当然最後の華を飾りたかつたし、飾るべきであつたが最善を尽した事に何も云う事はないのである。後は天年の附屬戦を信頼を以て後望に委せて安心すればよいのである。僕にとつて籠球部は入り立ての部だし正直に云つて忍耐力を養つた勉強の方に應用しようとしたのであるが皆が附屬戦目当に練習するのを知るにつけ、どうせ練習しても出られないならどう考へからぬの方でも善んでいる退部を思ひ付いた。但し日の浅い春に変な未練が残つて一応マネージャーと云う形で練習は止めた所部に止つた。球こそいじつて試合をしなかつたけれども借敗はしたけれどもあの感激は幸福であつた。部に残つていた事は幸福であつた。

戸山の附屬戦はカラツと晴れた青空の下ではなかつたけれども華々しく幕を揚げた。前に覚へてない事を覚へてゐる様に書いてゐる中に向ふに喋りすぎた様なので簡単に記す事にする。

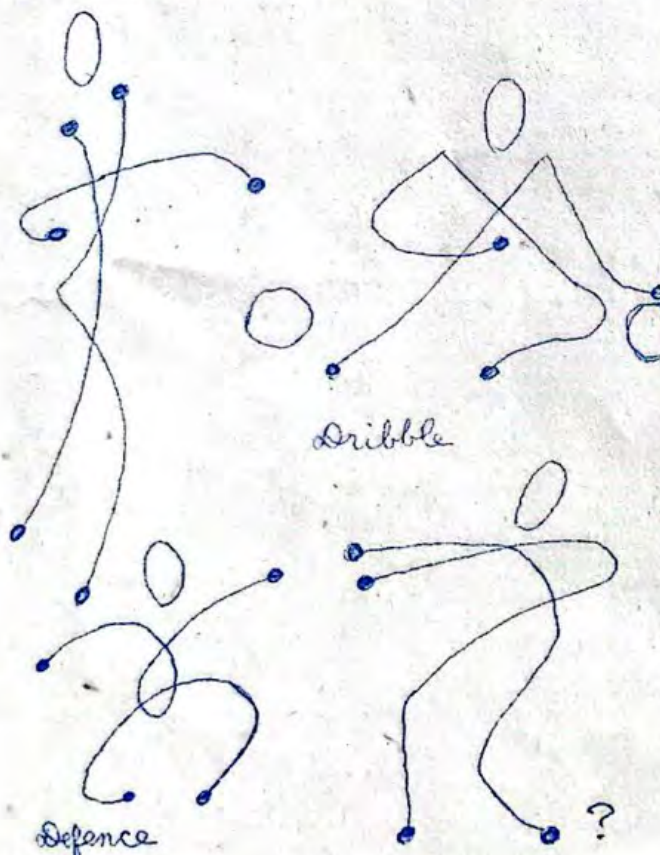
一寸此前の口体千送の戸山の試合日誌を見させて貰

つたが永井さんの様に何の試合も勝つ様な気がした。どうも心遣に違ふれば何れ程光榮な事だろうと思つただけけれど附屬戦の時は全くそんな気がしてしまつた。そして又事実も僕を教切らないでくれた。何だか味気なく勝つてしまつた様な気がする。何か曲きか雲泥の殊に思へた。練習中もシュートが決ると、
「見てくれい」と叫びたくなる程強い勝利感を覚えた。が全然味も肉もない空虚な迫力のないものであつた。勿論選手諸君の最善を尽したのは充分認めめての話しである。戸山附屬戦は矢鱈に騒いだがバスケットは騒がない方から教へてテニスの次である。何となれば怖いお婆様が後進の方を頼りにお睨みの御様子だつたのである。後で聞けば戸山の浅沼先生とかで、大層オーフニンクに欠けた方とか、それでこそ女子学院日本に存在する故由であらう。兎に角僕の喉を余り激しい空気の流動はなかつた様である。何はともあれ勝つてお芽出度うございませう。目白も今度必ず絶対勝ちます。実現したら幸いです。

書き終りに目白見送り、戸山ギヤツチのインターハイ並びに口体千送京都予選に就て、と云ひたい処、

実はインターハイは最後十文字に決勝で勝てなかつた事を感じてゐる大なので口体予選の難感を少し。皆から度々聞くんですが戸山は運がよい、そうです。幸ひと例に洩れなれど一回戦不戦勝でマシタね。二回戦必敗の試合と、観ていたものは皆思ひ高野料の成る者は見るに忍びなく最後棄権しました。が神河がハに福ひして勝つてしまひ本当に早や全く驚かしました。能く勝つたと云うのは四回戦お茶の水の時の共通する点です。三回戦は事なく南大と外に軽い気持ちで勝たせて貰ひ乍ら其調子でお茶の水に臨んだのが運、く勝つてしまつたのです。これこそ一回戦の後の川にも増しての奇蹟をみた称しました。でも物は進歩発展したのでしょうか。女子部の絶へざる努力が買はれたのでしょうか。お世辞でなく本当にそう思つてゐるのです。決勝戦は本当に落胆しました。宿敵とも云ふべき十文字に又も敗れたのですから。でも陰では全く敗れた連中の妬しそうな顔を見て云心にやゝ身の程良く弁へてゐる。そうです。同感です。お茶の水の敗けた時成る者は廿五番が可哀そうだとお茶の水に同情してあります。尤も二位

が準備勝にやつたのに喜んでゐるのですから。でもやるややつてそれで其結果に甘んじてゐるのですから誠に結構な事と思はれます。粘り強さには感心致しました。或人は凶々しさと名付けてゐる様です。但し此の凶々しさが非常に大切だと思ひますが負けにける時でも何、是から勝つてたつてな凶々しさと云ふより矢張り粘り強さは一寸比類ものです。する／＼べつたり長々と書いたが飽く迄、何でもいゝからの語につらぬての仕業です。



僕のいたすら描き..... K.K.

子部のチームが全日本高校生
送と口体予選と二つの大会共

決勝進出したといふ事は、最近
沈滞気味の籠球部にとつて全く喜
ばしいニュースであると云はぬは
なるまい。一昨年春の新制大学送
手取に優勝して以来停滞を続ける
大学チーム、そして三年間附屬に

運敗を続ける男子高等科チーム。
この中にあつて優勝は逸したとは
云へ女子部チームの活躍は全く刮
目に価する。今このチームの強さ
は何処にあるかと云ふ事を考へて
みると、変らぬメンバ―で長年練
習を続けてゐる所にあると云ふ事
が出来よう。長い人は中学の一年
の時から、又短い人も中二、中
三位からであるから、その経験年
数から云へば殆んど大学のメンバ―

と変らぬと云ふ事が出来よう。争かこのチームに最も要望される
とに角それだけの長い間の苦勞
がやつと實を結んだといふ事は
全く同慶の至りである。幸ひ、
後に続くメンバ―は豊富である
から今迄より一層練習に精出す
れて来年こそは優勝されん事を
心から願つてゐるものである。

子部高等科は三年の引退に
ともなひ部員が非常に少く
なつた。台座は既知無で行はれ
たが参加人員僅かに六人。部員
を獲得する事が目下の急務。
つ入つて来ないかなあ。と腕を
こまねいていたのでは駄目。広
沃上原一川君等の時代に逆行し
ない旅積極的な勧誘が必要。そ
れと同時に部員は少くとも、ま
とまつて規律のある部生を行ふ

大学のチームを見てみると何か
しら走ひ込んでゐる様な感じ
を受ける。決つた練習の時のみか
練習であり、その練習が終ると着
換へてさつさと帰る。この点は一
面から見ればだらく／＼してなくて
よいと云へない事もないが、これ
ある限り強くはなれない、決つた
練習の時にはチームのまとまりと
云ふ点だけ考へればよい旅にそれ
以外の時に自分で個人技術はいく
らでも修得出来るかと考へる。練習
以外の時に大学の連中の姿をコー
トに見出す事は非常にまれである。
殊にレギュラーとそれ以外の人と
の差が相当ある現在、レギュラー
以外の人の意定を切望する。それ

子部高等科は三年の引退に
ともなひ部員が非常に少く
なつた。台座は既知無で行はれ
たが参加人員僅かに六人。部員
を獲得する事が目下の急務。
つ入つて来ないかなあ。と腕を
こまねいていたのでは駄目。広
沃上原一川君等の時代に逆行し
ない旅積極的な勧誘が必要。そ
れと同時に部員は少くとも、ま
とまつて規律のある部生を行ふ

秋季高校選手権兼

自 八月二十八日

至 八月三十一日

秋季高校選手権兼 国体予選

秋季高校選手権兼国体予選が八月二十八日から
じまつた。

学習は全口高校選手権で東京都で二位になつたの
で今大会はシード校となつて、二十八日には試合は
なく、二十九日に一回戦があつた。

① 一回戦は滝の川と二高の勝者、滝の川とあつた。
私達は一回戦は滝の川と当る争を予想していた
ので滝の川の戦法を知る爲に滝の川の試合を偵察に
いつた。そしてあまり強そうでないと思つた。とこ
ろがこの前の大会の時、十文字に八点の差で負けた
ところが、私達は十文字に十点の差で負けている
ので学習院の方が二点負けていると思ひ、はたして
勝つるか心配した。

いよく試合が始り、オーコーナーは5対4で滝
の川が一点リードしていた。滝の川は遠攻法なので
私達の速いペースにしてしまおうと、オフェンスも

よく働き、シートもよくきまつたが、オフェンスのバ
ックが遅く、マントマンでつかれた時の獲の動きが
つかつた。前半が終つた時は10対9でやはり滝の川
が一点リードしていた。前の学習院だつたら前半の
わりに相手にリードされていたらその試合は負けて
しまつていた。この試合は勝つてという気分した。

オコーナーの半分過ぎた頃22対16で三ゴールリ
ドして、試合、その後滝の川につけて三ゴールさ
められて22対22の同点となつてしまつた。

延長戦にハリ滝の川がアリースローで一点入れ、
23対22と一ポイント差でしまつた。学習院はボー
ルをもつた時はもうノータイムだつた。二点で笛が
なつたらもう駄目だと思つていた時、鶴崎さんがお
投げになつた。それは無理なショットであつたが入つ
た。そのショットが入つたとたんに試合終了の笛がな
つた。私達は24対22で勝つたのだ。うれしかつた。

② 二回戦は南多摩とあつた。

南多摩はあまり強くないが、体力がすごいので、

と同時にレキユラーの人生にハ

スケツトの上面をなめてゐる様

な感じのする現在より今一歩飛

躍してもつと深い味のあるバス

ケツトを兼しんで貰ひたいと思

ふ。その為には一人々々がバス

ケツトに真正面から猛烈にぶつ

かつていくサイトと情熱とを持

たねばならぬと云ふ事と、一人

一人が何か一つでよい自分の身

に附いた技術として一歩々々着

実に体得してもらひたいものだ

と思ふ。

それ以外、大学チームは男子

女子高専科チームが近づいた為

か、上の方にホツカリとり残さ

れた感じ、もつと下との連絡を

密にして学習院籠球部全体の進

歩発展を考へるべきだ。特にキ

ヤアテン・マネジマーの政治力

に期待したい。

X X X

鈴木久雄氏は日立より西森の

山梨へ、納崎氏は釜石へ、大塚

氏は九州へ、卒業した途端に地

方へ進放されてからもうかれこ

れ半年、遠いからと思つて羽を

のぼすとじきにこちらの耳に入

りますよ。何しろ世間は狭いま

すからぬ。即用心。

X X X

もう大分夜もふけて来ました

先輩の方々の即活躍を祈り、又

秋のシーズンに於ける大学より

中学迄に至る男子各チームの活

躍を期待しつゝ、雑誌帳をどじる

事にしませう。

午前零時

竹龍王 生

戦績 27年春季以降九月迄

大学男子チーム

五月二日 本院 54 1 49 成城大

六月一日 本院 54 1 66 全成城

六月十日 本院 36 1 45 武蔵大

新リータトーナメント

六月廿二日 本院 59 1 37 芝浦工大

六月廿二日 本院 62 1 46 学芸大

六月廿二日 本院 53 1 71 横浜大

六月廿二日 本院 77 1 69 明学大

関東学生選手権

六月廿二日 本院 54 1 80 明治大

八月廿二日 本院 85 1 57 沼津俱

四大学対抗リーグ戦

九月廿二日 本院 86 1 32 成蹊大

九月廿二日 本院 59 1 50 成城大

九月廿二日 本院 57 1 69 武蔵大

大学女子チーム

第一回東京女子バスケットボール

対手大	学 習 院	種 別	米倉	阿部	茂木	松宮	青木	上原	反町	小林	牧	坂口	池田	氏名	新リ ー ク ー ト ー ナ メ ン ト 、 チ ー ム 及 伯 人 の 戦 績 (順不同)
37	22/45 15/20 19 59	出 場 時 間 野 投 率 自 由 投 率 反 得 則 点	3 %	3 %	6 %	16 3/5	29 2/5	24 3/3	26 2/5	17 1/1	21 1/4	26 2/4	20 8/11	対芝浦工大 対学芸大 対横浜口大 対明治学院 伯人別小計	
46	22/56 18/26 15 62	出 場 時 間 野 投 率 自 由 投 率 反 得 則 点	—	—	—	9 1/4	7 0/0	40 4/7	38 3/11	6 %	20 0/1	40 4/11	40 10/22		
71	22/66 9/18 12 53	出 場 時 間 野 投 率 自 由 投 率 反 得 則 点	—	—	—	—	—	40 1/8	40 9/22	—	40 0/3	40 8/18	40 4/15		
69	31/49 15/30 16 77	出 場 時 間 野 投 率 自 由 投 率 反 得 則 点	—	—	13 0/4	1 0/0	19 1/2	35 6/9	40 12/15	25 1/3	9 1/3	25 3/4	33 7/11		
223	97/216 59/101 62 251	出 場 時 間 野 投 率 自 由 投 率 反 得 則 点	3 %	3 %	19 0/5	26 4/9	55 3/4	139 14/33	144 25/33	48 2/4	90 2/11	131 17/40	142 29/39	伯人別小計	

少選手権

七月七日 本院 23 (13 10 11 13) 36 共立兼大

男子高校附属戦

六月八日 本院 37 | 41 附属高

女子部高等科チー

都女子高校春季大会兼憲法大会

五月十日 本院 15 (7 8 11 23) 35 お茶の水

附属定期戦

六月廿日 本院 41 (21 11 17) 19 附属高

全日本高校選手権大会都予選

七月廿一日 本院 35 (17 18 11 17) 29 小松川

七月廿二日 本院 42 (18 24 11 6) 23 本所高

七月廿三日 本院 23 (13 10 11 4) 12 八潮高

七月廿四日 本院 22 (11 11 15) 15 成城学

七月廿五日 本院 27 (14 13 12) 37 十文字

大会	対手	合計	主頁	中原	武蔵	中澤	岡安	永井	伊藤	葛城	上原	橋嶋	秋山	脇田	伊達	女子部戦績
団体予選	十文字	12/23 4/10									1/1 0/1	8/11 4/2	0/1	1/4 2/7	2/5	
	小計	35/104 20/57	0/2 0/1		0/1 2/2	1/4 0/3		0/2	3/7	3/3 0/2	1/2 1/6	18/29 5/8	9/16 4/10	8/17 5/11	2 2/11	

スリミール

大学

十二月廿二日—廿三日 全学生肉票予選

十二月四日—七日 全学生 於神戸

十二月十三日—十五日 全日本関東予選

十二月十四日—廿二日 全日本都予選

一月廿一日 全日本 於東京

中等科

九月廿七日 中等科附属定期戦

会員名簿補正

鈴木久雄 青森縣東洋野内局区内

上北鉾所清交際

河村卓哉 目黒区会町一一五 (08) 三二五五

宮島 浦 北多良郡泊江村岩戸一三〇〇

増田松方

小柄実は京橋。小川陽子は神前町の誤り

編 後 記

(小林記)

此の号は高等科の一大年中行事たる附属戦に重点を置いて編輯をすゝめておりました所女子部高等科が東京部で二位という好成绩を収めましたので、その方に大分重心が移動致しました。又〇日及び大学の方々からの原稿が少く、神鏡の通りの高等科特集の観を呈する事となりました。次号は秋季のシーズンを了えた頃に大学を中心として、多くの原稿を〇日の方々から頂けます様お願い致します。猶今回は高等科からの原稿が非常に多数来り、二三の方々には内容が重複致しますので割愛させて頂きました。悪レからず御諒承下さい。御協力下さいました諸先生先蓋現役郵賃締尾端に厚く御礼申し上げます。

部報光四号

一九五二年九月二十日発行

発行者 全学習院バスケットボール倶楽部

編輯者 小林 公

印刷者 小林 公

太